



ふれあい西本郷小

平成30年度
10月号

横浜市立西本郷小学校 学校だより 平成30年 9月28日(金)
一人ひとりがかがやき、みとめ合い、つたえ合い、たかめ合う西本小の子ども
キャッチフレーズ:あいさついっぱい みんながえがお 西本小

『 行事を通して集団の成長を 』

校長 川上 裕二

先日、4年生の上郷宿泊体験学習が行われました。実行委員(子どもたち)が中心となって準備を進め、行事を成功させることができました。10月には運動会、11月には全校遠足と大きな行事が続きます。これらの学校行事を通じ、西本郷小学校の集団活動が、学級・学年としてはもちろん、学校全体として大きく成長してほしいと願っています。学校は、集団の力によって一人ひとりを伸ばす場です。一人ひとりが集団を支えると同時に、集団が一人ひとりを活かす場になっています。教師の指導に頼るだけでなく、皆で学校をより良くしようと意識し、協力することが大切です。ルールやマナーを学び、それらを守って行動し、与えられた責任をしっかりと果たし、良好な人間関係を築いてもらいたいと思います。

そろそろ運動会の練習が始まります。走ることが得意な子どももいるし、苦手な子どももいます。仲間の走りを讃え、最後まで応援する姿に感動します。私の記憶にずっと残っている文章がありますので紹介します。

……私には生まれながら筋力が不足している長女がいます。速く走るできません。運動会の徒競走では、いつも「ビリ」です。彼女が小学校6年生のとき、運動会の前に足を捻挫してしまった友だちがいました。長女はこの友だちと一緒に走るようになっていたため、私の妻はこう思ったそうです。「友だちには悪いけれど、はじめて、ビリじゃないかもしれない……」

運動会を終え、妻はニコニコしながら帰ってきました。私は、「ビリじゃなかったんだ」と思ったのですが、「今回もやっぱりビリだった」というのです。今回もビリだったのにどうして妻はいつも以上にニコニコ嬉しそうにしていたのでしょうか？

徒競走が始まると、長女は、足の捻挫した友だちのことを何度も振り返り、気にかけてながら走ったそうです。自分のこと以上に、友だちがゴールできるか、心配だったのでしよう。友だちは足をかばうあまり、転んでしまいました。すると長女は走るのをやめ、友だちのもとに駆け寄り、手を引き、起き上がらせ、2人で一緒に走り出したそうです。2人の姿を見て他の児童も、保護者も、先生も、大きな声援を送りました。そしてゴールの前まで来た時、娘は、その子の背中をポンと押して、その子を先にゴールさせた……というのです。この話を聞いたとき、私は気づきました。人生の目的は、競い合ったり、比べ合ったり、争ったりすることではない。人生の目的は、「喜ばれる存在になること」である。私はそのことを長女から教わりました。……